

親鸞聖人御誕生850年 立教開宗800年 慶讃法要



発行
寂靜山 大光寺

令和6年5月25日(土) 午前10時から

親鸞聖人は一一七三(承安三年)に京都日野の里でお生まれになり、9歳で出家得度されました。その後、比叡山で学問修行に励まれましたが、29歳の時、師である源空(法然)聖人のお導きによって阿弥陀如来の本願を信じ「南無阿弥陀仏(なまもあみだぶつ)」という念仏の教えに帰依する身となりました。35歳の時、念仏弾圧により越後に流罪となつた後、関東に移つて念仏の教えを弘められ、晩年は『教行信証(きょうぎょうしんしょう)』等多くの著述に力を注がれ、90歳で京都にて往生されました。

ものごとを自己中心的にしか考へられない私たちがこの世を生きることは苦惱そのものです。その苦悩を超えて生きていく道を教えてくださるのが仏法です。阿弥陀仏は私たちに「どんなに孤独で苦しく悲しくとも、私はあなた方一人ひとりを、そのままに受けとめて、決して見放さない」との救いのメッセージを「南無阿弥陀仏」という名前に込めて、よび続けておられます。そのメッセージをそのままに領き受けとめることが、私たちに届けられた真実信心となり、どのような状況におかれ

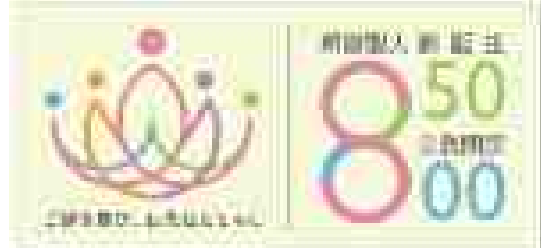
ようとも揺らぐことのない尊い安心を頂くこととなるのです。それこそが、さまざま苦悩にも向きあつて生きることのできる依りどころとなりましょう。

そういう阿弥陀仏から頂いている御恩への感謝の言葉がお念仏であり、その救いの在り方を、念仏者の生き方として私たちにわかりやすく、しかも体系立てて説き示してくださいましたというところが、浄土真宗にとって親鸞聖人による「立教開宗」の意義であります。

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要は、「親鸞聖人の説き示してくださいました浄土真宗の教えに出遇うことがなければ、今の私はありません」という聖人への感謝と、その教えに出遇えたことの喜びを込めて、聖人のご誕生を祝い、『立教開宗』に感謝する「法要」です。

この法要を勤めるにあたり、役員の皆様と話し合い、**大光寺では令和6年5月25日午前10時から、教楽寺では同日午後2時から**法要を勤めることとなりました。

皆さま ぜひ、お誘いあわせのうえ、ご参拝くださいますようお願い申し上げます。



教えて！住職！

まず、通夜の意味ですが、現在は通夜と

いいいますと、時間を決めて、僧侶を呼んで、読経をして、焼香をして、ご飯（通夜振舞い）を食べて、帰る、なり、親族は泊まるなりするのが一般的なようです。

しかし、通夜は読んで字の如く「夜通し」と書きまますので、本来は読経の時間は定めたとしても、参列者は時間通り来なくても良いものなのです。親族として迎える側も、故人が生身の身体で迎える最後の夜ですので、夜通し故人のそばで過ごし、最後の夜（終夜）と一緒に過ごすのでしよう。

ですから、通夜の夜はいっ参詣の方がこられてもいいように、お焼香ができる準備や、お出迎えできる準備を整えておかなければなりません。

お通夜のときは線香を絶やしてはいけな
おとい。 と言うのを聞いたことがありますか？
これは大嘘で、先に書いたように昔は人が亡くなると時間を決めて物事をするものがなかったのです、夜の夜中まで参詣者が絶えず、お焼香なりお線香の香りが絶えることがなかったのです。

近年は時間を決めて物事を執り行い、

「夜の夜中にお悔みに行くのは失礼だ」と考えるようになってしまったので、名残だけは残そうとグルグルグルグルと蚊取り線香のような物が開発され、長時間線香の火が絶えることのないようにと使用されるようになりました。

でも、元来のことを考えると参詣者も来ないのに線香だけ焚いて、火事でもになったら危ないですから、私はオススメしていません。

親族の方も、みんなが寝るときは火の始末はしっかりとするようにしましょう。

お通夜について教えてください

通夜・葬儀の際の立礼りつれいって必要ですか？

線香を絶やしてはいけないうって本当ですか？

さて、通夜のお勤めですが、遺族も参列者も一緒に座り、一緒にお勤めをして故人を偲び、仏さまの御徳を讃えたいものです。

お通夜のお勤めよりも、弔問客への挨拶に忙しいご親族の方を見受けますが、お勤めの最中は挨拶を交わす時ではありません。儀式に集中していただきたいと考えます。

お通夜とは、「苦楽を共にした者が仏前に遇（あい）、集（つど）い、故人を偲び、葬

儀まで静かにご遺体に付き添う」と言うのが本旨です。僧侶の読経中だけがお通夜ではありません。故人のご生涯を偲ぶと共に、有縁の人々が生きる意義を親鸞聖人の教えに聞き、たずねる「聞法の間」としたいものです。

ところが、実際には、弔問者と挨拶を交わす「社交の間」や、ご遺族が弔問者を接待する「宴会の間」になりがちです。

ある布教使さんのお話です。「いのち終るれば安養浄土（あんにようじょうど）の誕生日、お通夜は人間の卒業式、お葬式は仏さまの入学式」と、お話しされました。したがって、お通夜のお勤めは全員で唱和し、弔問者への挨拶はお勤めの後にじっくりされたら良いでしょう。

挨拶に気を取られ、ご本尊や故人にお尻を向けるのは、何のためのお通夜かわかりません。また、お通夜やお葬式などの仏事にいただく振舞い料

理も、気持ちはわかりますが、あまり派手にする必要もないと思います。また、お酒が入りますと、つい声高になり、時には笑い声が聞こえるようになりかねません。慎みたいものです。

それよりも、ご遺族は想像以上に心身ともに疲れています。むしろ、振る舞われた人の方が、気を遣ってあげるべきでしょう。宗教儀式である以上、お通夜は、ご本尊の前のご遺体の傍（そば）に集い、故人を偲び

つつ、「仏法に耳を傾ける場」なのです。僧侶の読経中は、「弔問者の弔意に応対する暇」ではありません。儀式に参列される人も、このことをよく心得ておいていただきたいと思えます。

特

に通夜に弔問に行かれる方にご注意いただきたい事があります。それは、「通夜に行く」ではなく、「焼香に行く」です。

「通夜に行く」ではなく、「焼香に行く」ではありません。通夜の読経が始まる前は100人以上の方が参列しているのに、お勤めが終わったら親族数名しか残っていないということがあります。はつきり言うとう、何しに来たのかよくわかりません。先にも書きましたが、故人のご生涯を偲ぶと共に、有縁の人々が生きる意義を親鸞聖人の教えに聞き、たずねる「聞法の間」。「仏法に耳を傾ける場」です。途中で帰ることなく最後まで故人のご遺徳を偲ばせていただきたいものです。

立礼りつれいについて

通夜・葬儀の際に遺族が前方に立って、弔問者一人一人に御礼をする場面をよく見かけます。後にお伺いすると遺族の意見は様々で、

○故人のためにわざわざ時間を割いて弔問に来てくださった方々の顔を拝見して御礼を言えたのがよかった。

○弔問者への対応で、故人との別れを偲ぶ暇がなかった。

○本場に必要なのかわからないが、これまで他の人のお通夜に行ったときにしていたし、打ち合わせの時、葬儀社に立礼するのが当たり前のようにお話をされた。

等、様々です。大切な人との今生最後の夜です。遺族の皆様には本場に大切な夜です。立礼が必要なのかどうかは、よく考えて判断していただきたいと思えます。

また、参列者におかれましては、立礼がないからといって「失礼だ」と考えることのないようお願いいたします。

※途中で帰ることのないようにしましょう。

「焼香だけ行ってくる」お通夜に行かれる際に口にしたことはありませんか？

はつきり申しますと、私たちのする焼香には、そんなに価値はありません。

亡き人のため、ではなく、お香の香りを嗅いで私自身が仏さまの世界の香りに身を委ねる事が大切です。また、遺族に挨拶したから帰る、と考えるのも論外です。遺族に対して「ちゃんとして来てますよ」という「社交辞令」にとられる恐れもあります。

通夜は亡き人が自身の身体で迎える最後の夜です。その姿を拝見して私自身の”いのち”について亡き人から学ばせていただくことが大切です。僧侶の話を聞き、”いのち”について私が聞かせていただくことが大切です。お焼香だけして帰る事のないように心がけたいものです。

- 通夜は故人のご生涯を偲ぶと共に、有縁の人々が生きる意義を親鸞聖人の教えに聞き、たずねる「聞法の間」です。
- 最後まで会場に留まり、亡き人を通して私自身の”いのち”について学ばせていただきましょう。通夜は「社交辞令」で行く場所ではありません。
- 通夜や葬儀での立礼は基本的には不要です。ただ、様々な考え方がありますので、一概にどちらが正解とは言えません。遺族が立礼していなくても失礼なことではありません。
- 線香は絶やしてもかまいません。参列者がいなければ消えるのは当然のことです。火のもとにはくれぐれも気を付けましょう。
- お焼香が終わってもすぐに帰るのではなく、元の席に戻りましょう。また私語も慎みましょう。大切なご家族を亡くされた遺族の気持ちに寄り添うことが大切です。

私たち浄土真宗の門徒の生活のたしなみとして、これまでに「浄土真宗の生活信条」「私たちのちかい」「^{りょうげもん}領解文」を歴代の御門主様がお示しく下さいました。阿弥陀様に願われた私たちのいのちは、私一人ではなくあらゆる生きとし生けるものが如来さまの慈悲の光に照らされています。1日1日を生かされているいのちを育むことの有難さ尊さを声に出していただければ幸いです。

1人でもご家族揃ってでもかまいません。是非どれか1つでも声に出してお読みいただければありがたく存じます。

浄土真宗の生活信条

一、み仏の 誓いを信じ
 尊いみ名をとなえつつ
 強く明るく生き抜きます

一、み仏の 光りをあおぎ
 常にわが身をかえりみて
 感謝のうちに励みます

一、み仏の 教えにしたがい
 正しい道を聞きわけて
 まことのみのりをひろめます

一、み仏の 恵みを喜び
 互いによくやまい助けあい
 社会のために尽します

私たちのちかい

一、自分の殻(から)に閉じこもることなく
 穏やかな顔と優しい言葉を大切にします
 微笑み語りかける仏さまのように

一、むさぼり、いかり、おろかさに流されず
 しなやかな心と振る舞いを心がけます
 心安らかな仏さまのように

一、自分だけを大事にすることなく
 人と喜びや悲しみを分かち合います
 慈悲(じひ)に満ちみちた仏さまのように

一、生かされていることに気づき
 日々に精一杯(せいいつぱい)つとめます
 人びとの救いに尽くす仏さまのように

領解文

もろもろの雑行雑修 自力のこころを
 ふりすてて、一心に阿弥陀如来、われら
 が今度の一大事の後生、御たすけ候へ
 とたのみまうして候ふ。

たのむ一念のとき、往生一定御たすけ
 治定と存じ、このうへの称名は、
 御恩報謝と存じよろこびまうし候ふ。

この御ことわり聴聞申しわけ候ふこ
 と、御開山聖人 御出世の御恩、
 次第相承の善知識のあさからざる御勸化
 の御恩と、ありがたく存じ候ふ。

このうへは定めおかせらるる御掟、
 一期をかぎりまもりまうすべく候ふ。

この領解文は、本願寺八代目宗主、蓮如上人が定められたもので、真宗の僧俗が自ら浄土真宗の教えの受け取り方(領解)を表した文章です。念仏のいわれを正しく聞き分け、浄土真宗の根本教義である「信心正因・称名報恩」が、簡潔に示され、また、信後の生活が勝手気ままであってはならないよう、ていねいに戒められています。

北海道の名和先生から仏さまのお話を寄稿いただきました。



恩にいつて

私の先輩のお坊さん、Sさんのお話です。その方は私よりも年齢が少し上なので、今は五十歳くらいだと思います。よく自分のおばあさんのお話をされています。Sさんは小学六年までのご両親と住んでいました。進級し、私立の中学校に通うことになったのですが、その学校が自宅からは遠いので、中学校の近くに住んでいるおばあさんのお家から通うことにされました。

おばあさんとの二人暮らしが始まりました。中学校は給食がない学校だったので、お弁当を持って行かなければなりません。まだ中のSさんはできないので、おばあさんが作ることにしました。おかずは煮物のみ。あとはご飯を持っていくだけで、毎日一緒だったそうです。学校に行くときと友達のお弁当の中身が気になります。卵焼き、ウインナー、から揚げ・色とりどり。自分は煮物だけ。色も茶色一色。二週間もすると友達たちに言われました。

「おい、お前の弁当いつも一緒だな。年寄りくさい弁当だな」そのうち「ババめし」とあだ名をつけられ、バカにされるようになったそうです。「おばあちゃん、明日は違うおかずをつくって」と言おうと思うのだけど、学校から帰るとかならず「おかせりなさい、いつも一緒の中身でごめんね」と先に言われたそうです。ごめんねと言われると何も言えません。「いいんだよ、おばあちゃん、気にしないで」

しかしいじめは毎日続きます。ある日「今日はお弁当を忘れたふりをして学校に行こう、お金を持っていけばパンを買える」と思いつき、食卓の上に用意してあるお弁当を忘れたふりをして学校に行きました。授業を受けていたSさん。するとふと窓の外を見ると、おばあさんが弁当を持って歩いてきているではありませんか。休み時間を見計らって、教室まで来たおばあさんは、Sさんをみつけ声をかけました。

「お弁当忘れていたわよ」すると周りにいたクラスメートが一斉に笑ってばかりにたそうです。「おい、おまえのばあさんがババめし持ってきてくれたぞ！」Sさんは恥ずかしいやら悔しいやら、色んな感情が同時に爆発してしまいおばあさんの差し出したお弁当を床に叩きつけました。「お前がこんな弁当作るから、俺は毎日恥ずかしい思いをしていたんだぞーこんな弁当いらん！もう帰れ！」思わず口にした言葉に、自分自身がハツとしたSさん。しかし出た言葉はもう戻りません。するとおばあさんは床

に散らばった煮物を丁寧に集め、持っていた手ぬぐいで床をきれいに拭きSさんに向かって言ったそうです。「いままで本当にごめんさないね」精一杯の微笑みを浮かべつつ、寂しげ一杯のその表情と、帰って行く時の後ろ姿が何十年経った今も忘れられないそうです。



「おばあちゃんごめんなさい」の一言がなかなか言えない日が続き、そのうち一年もしないうちにおばあさんはなんと事故で亡くなってしまいました。「僕はあの時なんてことをしてしまったんだろう」Sさんがおばあさんから受けていたはかりしれないほどのご恩の中に生かされていたことの本当の意味を知るのは随分後になってからだったそうです。

もとも「恩」には「なされたことを知る」という意味があります。私たちはたくさんのご恩をいただきながら生きていくには、どれほどそのことに目を向けられているでしょうか。そのことに気づかせてくれるのが仏教の教えです。返しても返しても簡単に返せないのがご恩です。「おばあちゃんにいただいたご恩を無駄にしないように、そのご恩をこれからの人生に生かしていきたい」S先輩の言葉が今も心に残っています。

大谷本廟への納骨について

- ・ お亡くなりになられてから10年以内の方
- ・ 1周忌を済ませた方
- ・ 大谷本廟に納骨を済ませていない方

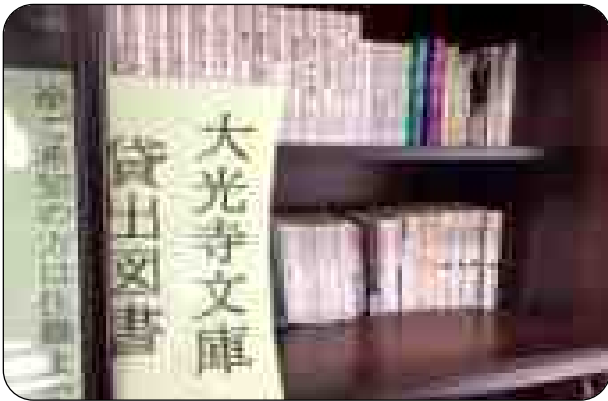
に毎年2月頃ご案内をしています。納骨を予定される方は、3月の最終土曜日を空けておいてくださいますようお願いいたします。

案内状が届いていない方も納骨することができますので、お寺までお問い合わせください。



大光寺文庫

大光寺では図書の出し入れをしています。専門的な教学の本から、お経や聖教の解説書、日常仏事のQ&A本、子ども用の絵本等を取り揃えています。貸し出し希望の方はお寺までどうぞ。



令和六年 年回忌表

回忌 逝去年

- 一周忌・・・令和五年
- 三回忌・・・令和四年
- 七回忌・・・平成三十年
- 十三回忌・・・平成二十四年
- 十七回忌・・・平成二十年
- 二十三回忌・・・平成十四年
- 二十七回忌・・・平成十年
- 三十三回忌・・・平成四年
- 三十七回忌・・・昭和六十三年
- 五十回忌・・・昭和五十年

※浄土真宗では二十五回忌をお勤めいたしますが、地域によっては二十三回忌・二十七回忌をお勤めすることがあります。高野口では後者の方が多いようですので、二十三・二十七回忌を記載しています。

永代納骨（合祀）墓があります



令和3年1月、大光寺の境内地(敷地内)に永代納骨(合祀)墓が出来ました。

近年増えてきた「墓じまい」後の御遺骨の埋葬や、新たにお墓を建立しない方の大切な方の埋葬ができます。

申込書は大光寺のホームページからもダウンロードできます。

詳細はお寺までお問い合わせください。

◎納骨懇志（御布施）

- ・大光寺門徒 1体につき15万円以上
- ・大光寺門徒以外の方 1体につき20万円以上
- ・法名碑への刻印 2万円

お寺の法要にお参りしましょう

お寺の法要へのお参りは浄土真宗門徒、大光寺にご縁のある全ての方々の大切な営みです。先人の言葉に「1日1度は家庭のお仏壇にお参りしましょう。月に1度は手次の寺にお参りしましょう。年に1度は本山本願寺にお参りしましょう。」とお勧めくださっています。

特に報恩講には必ずお参りしましょう。

お寺の法要・行事予定

	大光寺	教楽寺
・12月31日 除夜の鐘	午後11時半頃	
・1月2日 お正月のお勤め	午前10時	
・3月22日 春季彼岸会	午前10時	午後2時
・5月25日 親鸞聖人御誕生850年立教開宗800年慶讃法要	午前10時	午後2時
・8月12日 盂蘭盆会	午前10時	
・9月23日 秋季彼岸会	午前10時	午後2時

浄土真宗門徒としての基本的な、とても大切な事柄です

浄土真宗の教章（私の歩む道）

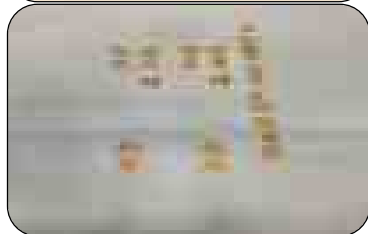
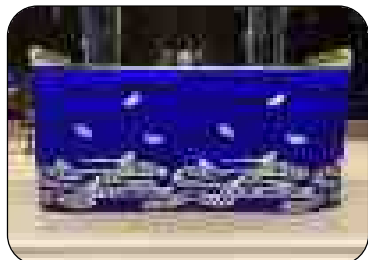
宗名 浄土真宗（じょうどしんしゅう）
 宗祖（ご開山） 親鸞聖人（しんらんしょうにん）
 ご誕生 1173年5月21日（承安3年4月1日）
 ご往生 1263年1月16日（弘長2年11月28日）
 宗派 浄土真宗本願寺派（じょうどしんしゅう ほんがんじは）
 本山 龍谷山 本願寺（西本願寺）
 本尊 阿弥陀如来（南無阿弥陀仏）
 聖典

- ・ 釈迦如来が説かれた浄土三部経
 『仏説無量寿経』 『仏説観無量寿経』 『仏説阿弥陀経』
- ・ 宗祖親鸞聖人が著述された主な聖教
 『正信念仏偈』（『教行信証』行巻末の偈文） 『浄土和讃』 『高僧和讃』
 『正像末和讃』
- ・ 中興の祖蓮如上人のお手紙
 『御文章』

教義 阿弥陀如来の本願力によって信心をめぐまれ、念仏を申す人生を歩み、この世の縁が尽きるとき浄土に生まれて仏となり、迷いの世に還って人々を教化する。

生活 親鸞聖人の教えにみちびかれて、阿弥陀如来の み心を聞き、念仏を称えつつ、つねにわが身をふりかえり、慚愧と歓喜のうちに、現世祈祷などにたよることなく、御恩報謝の生活を送る。

宗門 この宗門は、親鸞聖人の教えを仰ぎ、念仏を申す人々の集う同朋教団であり、人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を伝える教団である。それによって、自他ともに心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する。



この度、亡き人をご縁とした永代経懇志として「水引」を寄進いただきました。水引は、本堂中央の大きな机をお化粧するもので、法要には欠かせない大切な法具です。

『永代経懇志』はお寺が永代にわたって護持されることによつて、末永く仏さまの教えを聞き、お念仏のみ教えを喜ばせていただくことを願い納められるものです。「故人のために納める」のではなく、故人の「永代にみ教えが伝わるように」との遺志を受けた施主が「故人になり代わって納める」ものです。

裏側にはご縁とされた故人・寄進者のお名前を刺繍させていただきます、これから50年100年と大切に使用させていただきます。ありがとうございます。

水引を寄進いただきました

「ハワイ・マウイ島大規模火災 災害義援金」募集について

2023(令和5)年8月8日(日本時間8月9日)、ハワイ・マウイ島の山火事を原因とする大規模火災により、島内のラハイナを中心に甚大な被害が発生しました。浄土真宗本願寺派ハワイ開教区ラハイナ本願寺においても、本堂・庫裏・ホール(会館)・プリスクール(保育園)が全焼し、メンバー(門信徒)をはじめとする多くの人々への様々な被害が見込まれます。

被災地を支援するため、西本願寺では「たすけあい運動募金」において標記義援金の募集を開始いたしましたので、ご協力いただきますよう、下記の通りお願い申し上げます。

1. 募金の名称

浄土真宗本願寺派 たすけあい運動募金
「ハワイ・マウイ島大規模火災 災害義援金」

2. 受付口座番号

郵便振替 01000-4-69957
加入者名 たすけあい募金

銀行振込

銀行 ゆうちょ銀行
店名 一〇九(イチゼロキュウ)店
番号 当座 0069957
名義 たすけあい募金

※通信欄に「マウイ島災害義援金」とご記入ください。

お預かりした募金は災害義援金として、被災地へお送りさせていただきます。

※大光寺でも受付しています。



火災以前のラハイナ本願寺



炎に包まれるラハイナ本願寺

大光寺だより『かがやき』

第一号

1. 御挨拶
2. 願と行い(法話)
3. 仏旗の由来
4. 仏様と出遇うということ(法話)

第二号

1. 教えて！住職！
・法事は命日より早く勤めた方がいい？
・祖父の○回忌と祖母の○回忌を一緒に勤めたいのですが。その時のお布施はどうすればいい？

第三号

1. お供物について
2. 戦地からの便り(法話)
3. 教えて！住職！
・法名、院号って何？
・法名と戒名
・亡くなってから付ける名前？

第四号

1. 教えて！住職
・お布施が気になります。
・お布施の表書きについて
2. 闇を照らすともしび(法話)

第五号

1. 永代納骨墓について
2. 仏前結婚式
3. 悲しみのこころ(法話)

第六号

1. 教えて！住職
・永代経って何ですか？
・永代経と永代供養は違いますか？
・永代経を納めたら後は何もしなくてもいい？
2. 土(法話)

第七号

1. 教えて！住職
・お仏壇の購入について
2. 不請の友(法話)

第八号

1. ロシア、ウクライナ戦争(法話)
2. 教えて！住職
・法事の時のお茶を出すタイミング
・法事を勤める際に気を付けなければいけないこと
3. 法事の所要時間
・四無量心(しむりようしん・法話)

第九号

1. 報恩講を勤めました
2. 教えて！住職
・葬儀について親族や親しい人がお亡くなりになった時編
3. 気になりますか？友引
4. 法話

第十号

1. 常香盤を修復していただきました。
2. 教えて！住職
・家族葬と一般葬について
・香典のお話
3. 院号について
4. 「出遇う」ということ(法話)
5. 東日本大震災13回忌法要

ホームページは
コチララ →

<http://www.eonet.ne.jp/~daikouji/kagayaki.html>



種別	懇志額	御扱い	読経
特1種	100万円以上	相応の記念品 感謝状	個別月忌 (50年間)
特2種	50万円以上	相応の記念品 感謝状	個別月忌 (30年間)
1種	30万円以上	相応の記念品	個別祥月 (30年間)
2種	15万円以上	相応の記念品	祥月総経 (30年間)
3種	5万円以上	相応の記念品	祥月総経 (10年間)

過去帳について
過去帳への故人の法名や俗名の記載について、お寺で記載する場合、次のとおり、お布施をお包みいただきますようお願いいたします。
※一名につき二千元以上
※新しい過去帳に記載する場合は三千元以上
尚、過去帳は各家庭のどなたが記載されてもかまわないものです。記載方法がわからなければ、お寺までお尋ねください。

永代経について
お寺では永代経の申し込みを随時受付しています。
また、8ページに書いたように、物品での進納も受付しています。
永代経の意義については、「かがやき」第6号に掲載しています。
お寺での永代経区分は左のとおりです。

本願寺参与とは、本山本願寺の護持発展のため設置されたもので、浄土真宗本願寺派に所属する僧侶・門徒で法義篤信な方が就任されています。参与会員は会員が如来の教法を信じ、信仰を深めるとともに、会員相互の親睦をはかり、一致協力して本山本願寺の護持発展に努めることを目的として、本願寺住職（御門主）から委嘱されます。

本願寺参与

叙勲・褒賞
毎年、春・秋に国の「叙勲・褒賞」の発表があります。大光寺・教楽寺のご門徒の受賞者には、浄土真宗本願寺派より褒賞が授与されますので、住職までお知らせください。

本願寺参与に委嘱されると、次のような待遇があります。
①法要の案内・各種接待
(1) 毎年、御正忌報恩講に参拝後、鴻の間（国宝）で、御門主ご臨席のお齋接待に案内されます。
(2) 毎年、宗祖降誕会に参拝後、降誕会祝賀能及び茶席に招待されます。
(3) 年1回、本願寺住職ご臨席の園遊会に招待されます。
(4) 毎年、龍谷会（大谷本廟報恩講）に参拝後開催の本願寺住職ご臨席の懇談会に招待されます。
②法要出勤
(1) 本願寺において修行される法要で縁儀又は庭儀が行われるとき、本願寺参与は出勤することができません。

	参与講金	参与会費
新規就任年度	35万円以上	5万円
継承就任年度	15万円以上	5万円
終身参与就任年度	300万円以上	5万円
次年度以降（年間費）	15万円以上	5万円

(2) 通算出勤回数5回毎に、本願寺参与会代表より、感謝状及び記念品が授与されます。その他、色々な待遇が受けられますので、詳しくは住職までお尋ねください。
③参与講金・会費

お知
らせ

大光寺のホームページをリニューアルしました。まだまだ発展途上の段階ですが、これから徐々にページを増やして様々な情報を発信したいと思えます。ゆっくり眺めてください。HP制作に詳しい方、アドバイスをお願いします！



お寺の山門側にインターフォンを設置しました。これまで山門からお入りいただいた時に呼び出しをしていただく術がなく、わざわざ北側玄関まで呼び出しに来ていただいていたのですが、不便さを少しでも解消できたかなと思っています。

お寺にご用の方、法事等でお寺に到着された際はインターフォンでお知らせください。

本
堂

法事等で本堂を使用する場合、本堂使用冥加金として金10,000円のご進納をお願いしています。

護
持
費
の
納
入
を
お
願
い
し
た
し
ま
す

毎年すべてのご門徒様に護持費(10,000円)の納入をお願いしています。お納めいただきました護持費は本堂をはじめとする諸堂宇の維持管理や、仏さまへの御仏飯・お花・お線香等のお供えに充てさせていただきます。何かと厳しい折大変恐縮ですが、未だ納めておられない方は、早々にお納めくださいますようお願い申し上げます。

お
願
い

ご法事等、お参りのお電話をいただく際、日程に比較的余裕をもってご連絡くださいますようお願いいたします。少なくとも希望日の1カ月前を目途に、候補日を2つか3ついただくと大変助かります。職場での勤務調整をしなければいけませんので、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

住職直通の携帯電話はコチラ⇒ 090-7488-5765

ご祥月法要のお参りについて

住職を継職してから、月忌参り(常速夜)を休止しております。

祥月命日(故人の正当のご命日)はお参りさせていただきますので、ご希望の方はお寺までご連絡ください。

大光寺 0736-42-3055

